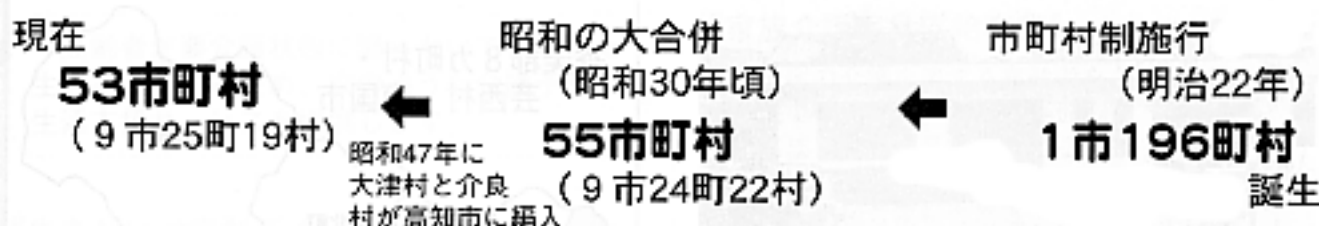
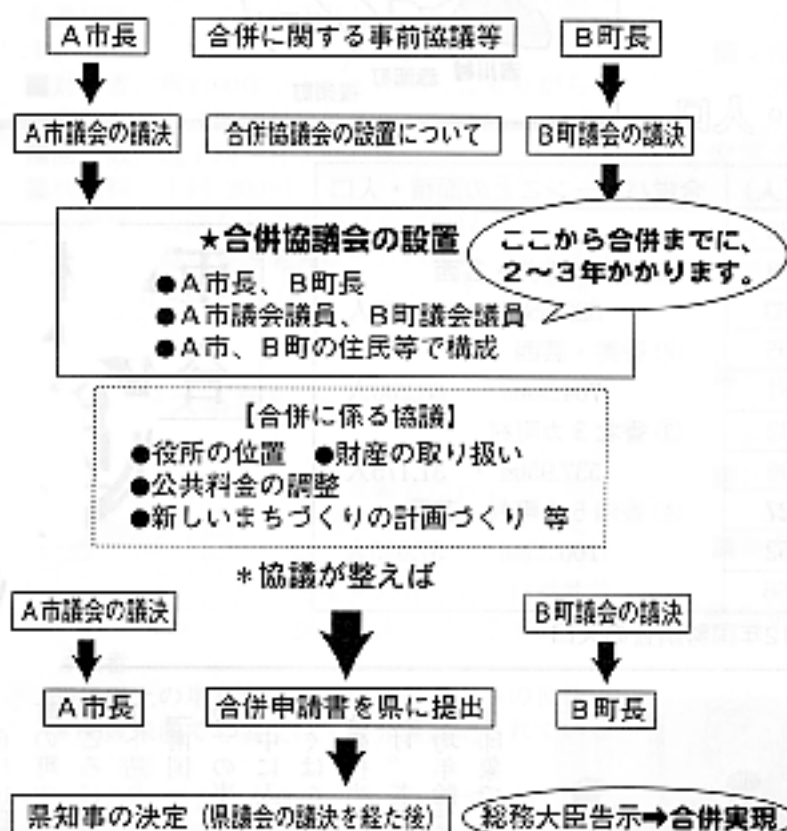


★高知県の市町村数の変遷



市町村合併の主な手続き



それぞれの市町村にはこれまで行ってきた独自の施策もあり、「どこまで現実に近い資料になるか」と、その苦労のぞかせながらも、重要な判断材料となる資料を作成しているだけに、全員の目は真剣そのもの。

「5月22日、6月5日の助役会に合併資料を報告し、次

は首長会が6月末にあります」と公文さん(香我美町)。

目の前にせまった首長会に向けて、着実に資料づくりが進められています。

ところで、市町村合併の手続きはどのような流れで行われるのか、ご存じですか？

合併についての事前協議が整えば、各市町村議会の議決

に基づいて「法定の合併協議会」の設置を行います。

「協議会」では本格的に合併に向けての作業が開始され、住民サービスの内容や新しい町づくりの計画などが協議され、各市町村議会の議決を得た後、

県に対して合併申請書を提出。国の

協議(同意)、県議会の議決を経て、国への届け出により新しい町が誕生するというわけです。

今回取材した「検討会」事務所はこの事前協議のための基礎資料を作成しているわけです。

「10年先、20年先を見据えた財政状況はシミュレーションどおりには難しいですが、この基礎資料が、より現実的なシミュレーションであるように、県の指導も仰ぎながら取り組んでいます」と力強く語ってく



れました。

これまでのところ市町村合併についての市民の関心は低く、南国市内各公民館での説明会に参加された人数も決して多くはなかったようです。南国市以外の町村でも、それ

特集 市町村合併は今…

市町村合併検討会事務所取材して



▲同事務所を取材した広報委員の皆さん
(右から、島崎委員長・田内副委員長・速原副委員長・吉本委員・渡邊委員)



右：同事務所の吉岡チーフ
(南国市職員)と勝賀瀬県
地域政策室室長(左)

★それぞれの市町村で、市町村合併に関するアンケート調査や座談会などを実施する中での地域住民の反応や声を聞きました。

- A市町村：地理的に離れているので、合併をすれば高齢者が不便に感じるのではと心配している。
B市町村：前の合併に加わらず、そのために財政再建団体に陥るなど苦難を経験したので、今回は慎重に取り組みたい。
C市町村：合併は仕方ないかもしれないが、住民サイドで決めるのは難しい。
D市町村：市民の熱は低く高知市との合併を考えてはという意見もある。
E市町村：関心が少なく、報道が先行しているようでどうしてよいか分からない状況。

その地域でのアンケート結果や座談会の印象をお聞きしたところ、合併に対するそれぞれの思いには温度差があり、認識の違いを見せているようです。

国は、平成17年3月までに合併をすれば財政支援等の優遇措置をもうけるなど、合併へ向けての支援策を打ち出しています。

この措置を受けるためには今年の9月頃までに一定の判断をする必要があります。

先の合併から約半世紀。道路網や交通機関の発達で私たちの生活圏は広がり、経済の振興とともに社会の情勢は大きく変わりました。現代社会の抱えるさまざまな悩みが表面化してきています。

今後50年先、100年先を見通すと言ふことは、誰しも容易にできることではありませんが、少なくとも今、私たちの前に大きな選択肢が横たわっていることだけは確かです。

合併するのか、しないのか、あるいは、今後どんな町を、

生活を築いていきたいのか、私たち市民一人一人が自分のこととして積極的に討議に参加し、子供たちや孫の世代に悔いを残さない判断をしなれば、という思いを強めつつ事務所を後にしました。

島崎広報編集委員長

合併に対するそれぞれの思いも温度差があり認識の違いがあります。今まで検討の対象となる資料が少なく漠然とした損得の議論が先行していたのではないのでしょうか。

これからは、討議の材料とすべき数値が示され、実際に合併した際の市民負担の数字や行政サービスの内容が見えてくると市民の関心も高まるのではないのでしょうか。

合併は、今始まったわけではなく、昭和の大合併など全国的に見ても多くの市町村が合併しています。私たちは、こうした時代の移り変わりの節目にきていると思います。みんなで勉強し、私たちの将来のまちづくりを議論して、判断しなくてはと思っています。

あなたはどうか考えますか？

市町村合併!!